

第2回

洞爺湖芸術館あり方検討委員会 資料

令和6年10月2日（水） 16時00分

目 次

趣旨説明

- I 洞爺湖芸術館の構成要素について ----- 1p
 - 1 洞爺湖芸術館を構成する要素
 - 2 所蔵作品の価値

- II 美術館の役割について -----20p
 - 1 美術館の原則

- III 洞爺湖芸術館の課題について -----21p
 - 1 保存管理の課題
 - 2 施設管理の課題
 - 3 運営体制の課題
 - 4 今後の課題

趣旨説明Ⅰ 洞爺湖芸術館の構成要素について

1、洞爺湖芸術館を構成する要素

洞爺湖と彫刻が出会ったのは、1984年のことです。

洞爺湖という雄大な自然美に映えるそのフォルムは、生への賛歌を高らかに謳い上げる58基の野外彫刻「とうや湖ぐるっと彫刻公園」の誕生、自然と芸術の調和を奏でる新鮮な感動は、国際展「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ展」に発展し、洞爺湖を囲む新しいアート圏に洞爺湖芸術館が誕生しました。

洞爺湖芸術館には「彫刻」、「写真」、そして「文学」まで所蔵・展示する湖畔の小さな美術館です。

この施設を構成する要素の本質的な価値は、四つの異なるコレクションです。

これらは一見して、関連性がないようですが、実はお互いにつながっており、作品が作品を呼んだといっても過言ではないコレクションにまつわるストーリーがあります。

二次的な要素の価値は、1952年（昭和27年）建造の旧洞爺村役場をリニューアルした昭和の時代の雰囲気の色濃く残した木造二階建ての建物と広大な自然豊かな洞爺湖です。そして周辺地域の環境を構成する「ぐるっと彫刻公園」、「老三樹記念保護樹木」、さらに地域活性の拠点「とうや水の駅」です。

2、所蔵作品の価値

（1） 彫刻家砂澤ビッキ氏の作品

砂澤ビッキ氏は北海道旭川市出身彫刻家で、初期には阿寒湖畔と鎌倉、その後札幌を制作の拠点とした。1987年から音威子府箴島（おさしま）の小学校跡にアトリエを構え、亡くなるまでの十余年、精力的に木彫作品の制作を行った。また絵画は初期から最晩年まで制作を続けた。

【略歴】

1931年 北海道旭川市に生まれる。本名は、恒雄（ひさお）、「ビッキ」は少年の頃から呼ばれていた愛称。

1952年 上京し、独学で絵画・彫刻を学ぶ。

1955年 第5回モダンアート協会展に絵画「考える人」「動物の時限」出品し、初入選。

1959年 北海道に戻り、以降東京を中心に個展を開催。

1978年 第1回北海道現代美術展（北海道立美術館）出品。

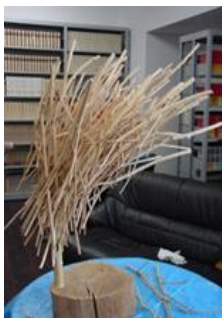
札幌から中川郡音威子府箴島に移住、小学校の廃校をアトリエとする。

- 1983 年 カナダに留学。IMAGES OF BRITISH COLUMBIA 展（アーティストギャラリー・バンクーバー）
- 1986 年 木の六人展（北海道立美術館）出品。
札幌芸術の森野外美術館に高さ 5.4 m のクロエゾマツで制作した「四つの風」を設置。
- 1989 年 札幌にて死去。“大胆にして繊細、原始的にしてモダンで独自の作風を確立”
- 2003 年 音威子府箴島にエコミュージアムおさしまセンター砂澤ビッキ記念館をオープン。
- 2010 年 札幌芸術の森野外美術館に設置されている〈四つの風〉の一体が倒壊。
その後、2011 年に一体、2013 年に一体が倒壊。
- 2017 年 神奈川県立近代美術館にて「砂澤ビッキ展―木魂を彫る―」開催
北海道以外では公立美術館での初めての個展。

【代表作】

- 《北の王と王妃》神奈川県立県民ホール蔵
- 《神の舌》《午前 3 時の玩具》《四つの風》札幌芸術の森美術館蔵
- 《風》北海道近代美術館蔵
- 《風》《もえ》《イメージズ・オブ・ブリティッシュコロンビア》洞爺湖美術館蔵
- 《飲》室蘭市入江運動公園プロムナード内

【洞爺湖芸術館所蔵 木彫刻作品】

1976 年  「季面」 クルミ 48.0×23.0×12.0	1979 年  「萌」 センノキ 185.0×77.0×88.0	1980 年  「TOH」 アカエゾマツ 317.0×148.0×150.0
1980 年  「TOH B」 ナラ埋木 188.0×46.0×47.0	1980 年  「TOH C」 ナラ埋木 240.0×60.0×50.0	1983 年  「Images of British Columbia」 アメリカビ 210.0×52.5×52.0
1983 年  「樹華」 ヤギ 107.0×64.0×54.0	1988 年  「風」 アカタモ 173.0×242×74.0	1988 年  「隔生 A.C」 カツラ 左 122.0×80.0×15.0 右 121.0×73.0×15.0

1988 年  「風の目」 タモ 130.0×147.0×160.0	1988 年頃  「風」 カツラ 51.5×14.0×11.0	1988 年頃  「風」 カツラ 213.0×51.5×43.0
1988 年  「樹の処女」 カツラ、クルミ 99.9×22.0×48.5	1988 年  「北の王の面」 クルミ 97.0×37.0×24.0	1988 年  「樹頭」 クルミ 68.0×26.0×23.0
 「無題」制作年不詳 40.0×203.0×35.0	 「無題未完」制作年不詳 214.0×55.0×53.0	 「無題未完」制作年不詳 右 270.0×40.0×46.0 左 222.0×43.0×46.0

【洞爺湖芸術館所蔵 絵画作品】

1982 年  「鳥女」 グアッシュ 63.5×49.0	1982 年  「鳥女」 グアッシュ 63.5×49.0	1984 年  「無題」 ミクストメディア 33.5×24.5
1984 年  「TOH」 鉛筆デッサン 52.0×33.0	1987 年  「北の王と王妃」 ミクストメディア左 38.0×18.0 右 38.0×18.0	1988 年  「吹雪のしっぽ」 ミクストメディア 45.0×37.0
1989 年  「神の予感」 ミクストメディア 37.0×45.0	1989 年  「絶筆」 ミクストメディア 53.0×86.0	1989 年  「AM3:15 の看護婦」 デッサン 39.0×30.0

(2) 高い評価を得た「彫刻ビエンナーレ」国際展と著名な審査委員

「ビエンナーレ」とは、イタリア語で「2年に一度の」という意味です。

作品のサイズを20×30×40cm以内に限定した、2年に1度の国際彫刻公募展（一般から作品を応募し、審査によって入選作品と賞を決め、展示する展覧会）。1993年まで、公募展（全8回）開催され、その入賞作品86点のコレクションです。

2000人の小さな村から世界に向けて発信されたこの公募展は、50人委員会を作って積極的に関わったこともあり当時はかなり話題になりました。また、当時の日本美術界の先端でご活躍された方々に審査をお願いすることができ、非常にレベルの高い作品が集められることができました。創造は、宇宙のように無限で可能性を秘めた、創造の原点「手のひら」。これが一貫したテーマです。

世界中の彫刻家が参加できる公募展を目指し、1993年第1回洞爺村国際彫刻ビエンナーレを開催、2007年までの93カ国（作家出生国数）からの多数の応募があり、国際展として大きな成果が得られました。

【歴代審査委員】

浅 野 徹

1937年東京生まれ。美術評論家。63年東京国立近代美術館勤務、美術課長。

1989年愛知県美術館開館準備室長、92年初代館長。

2000-02名古屋ボストン美術館長。専門は日本近代美術史。

奥 岡 茂 雄

1973年4月から北海道近代美術館の開設準備に従事。77年同館開館後は芸術課長、学芸部長、学芸副館長。2002年引退後は北海道浅井学園大学教授及び札幌芸術の森館長を併任。美術評論家連盟会員。

小 田 襄（1936年—2004年）

1936年東京都世田谷区生まれ。日本の彫刻家国際的金属造形作家で、ステンレスを使った作品で知られる。紫綬褒章受賞、日本美術家連盟理事長。教育者として多摩美術大学、東北工業大学において多数の後進の教育に携わった。

酒 井 忠 康

1941年北海道余市郡余市町生まれ。64年慶應義塾大学美学美術史科卒業。同年より神奈川県立近代美術館学芸員。2004年より世田谷美術館館長。多摩美術大学美術学芸部芸術学科客員教授、国際美術評論家連盟会員。美術館連絡協議会理事長。

笹 野 尚 明 (1934 年—2011 年)

1934 年函館市生まれ。1937 年北海道立近代美術館開設準備室主任、道立旭川美術館を経て札幌芸術の森美術館勤務。96 年から 2004 年まで同館館長を務める。

澄 川 喜 一

1931 年島根県六日市町生まれ。彫刻家。元東京芸術大学学長。新制作協会会員、日本芸術院会員、文化功労者。金沢美術館工芸大学客員教授。東京芸術大学名誉教授、島根芸術文化センター「グラントワ」長、石見美術館館長、財団法人横浜市芸術文化振興財団理事長等を歴任。安藤忠雄とともに東京スカイツリーのデザイン監修者。

匠 秀 夫 (1924 年—1994 年)

美術評論家。北海道大学文学部西洋史学科卒。同大学院（旧制）修了。1966 年から札幌大谷短期大学教授。1981 年神奈川県立近代美術館館長、1987 年茨城県立美術博物館（現代茨城県近代美術館）館長。

【歴代入賞作品及び応募総数】

	虫ケラの砦	Bell of The Earth	ronde	BIRCH FISH
93 入賞 作品	大賞	準大賞	優秀賞	優秀賞
	 素材 鉄 (賞金 3,000,000)	 素材 ブロンズ (賞金 2,000,000)	 素材 ステンレス・顔料 (賞金 1,000,000)	 素材 ブロンズ (賞金 1,000,000)

<応募総数> 第1次審査作品 39ヶ国 / 578作品

(日本 406作品 / 外国 172作品)

<保管展示作品数> 8点 (入賞 4点・入選 4点)

95 入賞 作品	ANCHOR	無題	The life case	house for Maria
	大賞 	準大賞 	優秀賞 	優秀賞 
	素材 黒御影石 (賞金 3,000,000)	素材 黒御影石 (賞金 2,000,000)	素材 木・ブロンズ等 (賞金 1,000,000)	素材 木・金物等 (賞金 1,000,000)
	Without Title			
	T氏賞 			
	素材 石 (賞金 500,000)			

<応募総数>

第1次審査作品 45カ国 / 726作品

(日本 439作品 / 外国 287作品)

<保管展示作品数>

19点 (入賞4点・特別賞1点・入選14点)

	2 EN 1	WINDOW	THE NAVIGATOR	遊休
97 入賞 作品	大賞  素材 木 (賞金 3,000,000)	準大賞  素材 黒御影石 (賞金 2,000,000)	優秀賞  素材 ブロンズ (賞金 1,000,000)	優秀賞  素材 ブロンズ (賞金 1,000,000)
	MOMENT			
	F氏賞  素材 銅・ポリカーボネート (賞金 900,000)			

<応募総数>

第1次審査作品 63カ国 / 882作品

(日本 491作品 / 外国 391作品)

<保管展示作品数>

18点 (入賞4点・特別賞1点・入選13点)

99 入賞 作品	Soraya 2c	記憶の中の風景	澎湃（ほうはい） －漲りうつ光－	FAT MAN
	大賞  素材 溶解金属等 (賞金 3,000,000)	準大賞  素材 ステンレス・アルミニウム (賞金 2,000,000)	優秀賞  素材 紙・アクリル樹脂 (賞金 1,000,000)	優秀賞  素材 スチール (賞金 1,000,000)
	SILVERY MOON			
	F 氏賞  素材 光学ガラス (評価 500,000)			

<応募総数> 第1次審査作品 65カ国 / 956作品

(日本 536作品 / 外国 420作品)

<保管展示作品数> 16点 (入賞4点・特別賞1点・入選11点)

01 入賞 作品	西方のシタデル	KOPFPAAR	PAGEANT	SANCTUARY
	大賞  素材 コルデン鋼等 (賞金 3,000,000)	準大賞  素材 木 (賞金 2,000,000)	優秀賞  素材 ブロンズ (賞金 1,000,000)	優秀賞  素材 石・アクリル樹脂等 (賞金 1,000,000)
	BALANCED MAN			
	F氏賞  素材 ステンレス (賞金 500,000)			

<応募総数> 第1次審査作品 73カ国 / 826作品
 (日本 394作品 / 外国 432作品)
 <保管展示作品数> 13点 (入賞4点・特別賞1点・入選8点)

	ROOTED	Immortality Unveil	PICCOLA TRAPPOLA	太古の香り
03 入賞 作品	大賞  素材 樹脂等 (賞金 3,000,000)	準大賞  素材 石鹸石・ブロンズ (賞金 2,000,000)	優秀賞  素材 カレー産大理石 (賞金 1,000,000)	優秀賞  素材 アクリル樹脂 (賞金 1,000,000)
	安息の場所 F氏賞  素材 ガラス (賞金 500,000)			

<応募総数> 第1次審査作品 66カ国 / 633作品
 (日本 366作品 / 外国 267作品)
 <保管展示作品数> 10点 (入賞4点・特別賞1点・入選5点)

	TRAVELLER WORLD	Personal Library	“FLYING IN THE BOX”	次元境界上の祭禮
05 入賞 作品	大賞  素材 木 (賞金 3,000,000)	準大賞  素材 木・皮・紙等 (賞金 1,500,000)	優秀賞  素材 ステンレス・樹脂等 (賞金 1,000,000)	F氏賞  素材 銅・真鍮 (賞金 500,000)

＜応募総数＞ 第1次審査作品 62カ国 / 600作品
 (日本 374作品 / 外国 226作品)
 ＜保管展示作品数＞ 5点 (入賞4点・入選1点)

07 入賞 作品	Seed Of Cosmos	RETURN OF THE WATER	T A B U	ソーラン節 ロックにのって祭り来る
	大賞  素材 ステンレス (賞金 2,000,000)	準大賞  素材ブロンズ・アクリル等 (賞金 1,500,000)	優秀賞  素材カラー産大理石 (賞金 1,000,000)	小田襄賞  素材 ステンレス (賞金 1,500,000)
	mixed view 〈手の中の街〉			
	洞爺湖賞  素材アクリル・ステンレス (賞金 500,000)			

<応募総数> 第1次審査作品 46カ国 / 450作品
 (日本 295作品 / 外国 155作品)
 <保管展示作品数> 6点 (入賞3点・特別賞2点・入選1点)

(3) 世界的に活躍した並河萬里氏の写真

1993年に始まった洞爺村国際彫刻ビエンナーレ。この国際公募展を機に、審査員や芸術家との対話の中から、芸術を核とした地域づくりのために、写真によるイメージアップを図る「洞爺村イメージアッププロジェクト事業」が立ち上がりました。

無理だと思いつつも、世界的に活躍されていた並河萬里氏に相談したところ、快くお引き受けいただき、約3年にもわたる洞爺での撮影により、うつりゆく洞爺湖の四季、人々の生活、守り継がれてきた文化財などを対象に、最終的には1000枚を超える作品が残された。2005年、写真集「洞爺村幻想—その華麗なる大地—」を刊行し、その代表的な作品を収録しています。

【略歴】

1931年 東京生まれ。

1955年 日本大学芸術学部写真学科卒業。4月KRテレビ（現東京放送）報道部入社。
11月同社退社 以後フリーカメラマンとして活動

1966年 フランクフルト写真集団特別賞受賞。以後毎年のように、ドイツやスペイン、メキシコ、イラン、トルコ等各国から様々な賞を受賞。

1984年～1993年 ユネスコ・シルクロード総合学術調査主席写真家。

1989年 ユネスコ世界文化遺産主席写真家。

1994年 春・紫綬褒章受賞。

2002年 秋・薫四等旭日小受賞受賞。

2005年 写真集「洞爺村幻想—その華麗な大地—」刊行

2006年 神奈川県鎌倉市にて逝去（享年74歳）

【洞爺湖芸術館所蔵 写真作品】 52点 （パネル貼付写真1点、紙焼き写真 51点）

(4) 初版本・限定本にみる文学作品集

このコレクションは、神奈川県横浜市在住の石島氏が約40年かけて収集したものです。主に大正から昭和にかけての近代・現代文学作品の初版本・限定本・サイン本によって構成されています。

1993年に始まった国際彫刻ビエンナーレに携わったことをきっかけに芸術文化の振興を進めていた洞爺村の地域づくりに共感し、「彫刻であれ本であれ、大都市にばかり本物が集まる昨今だが、大自然の中の穏やかな時間が流れる場所にこそ、本物があるべき」という想いを込め、1998年に数千冊にも及ぶ蔵書の中から約400冊を寄贈されました。

このコレクションは、装丁の美しさ、鮮やかに残る作家の署名や落款など、発行された当時とほぼ変わらない姿を留めているのが特徴です。戦前・戦後の国内の状況や、大量消費時代への突入など、激しく移り変わる時代背景を考えると、これだけの保存状態を保っている大変貴重なものです。

【近、現代文学初版本（寄贈分）】 387冊

NO	題 名	著 者	出版年	評価額	備 考
1	悲しき玩具	石川啄木	S11年	14,000	限定本、箱付
2	板極道	棟方志功	S39年	10,000	初版本、箱付、外箱付
3	敦皇	井上靖	S35年	40,000	限定 署名入、背革天金装、箱付
4	詩集乾河道	井上靖	S59年	12,000	初版本、署名入、箱帯付き
5	火山灰地	久保栄	S13年	30,000	初版本、帯付
6	五稜郭血書	東健吾	S8年	25,000	初版本、ふまき
7	女優	渡辺淳一	S58年	16,000	限定本、箱付署名入、布装表紙、ふまき
8	豆本シリーズ	宮尾登美子		70,000	7冊、天金、箱付、毛筆署名付
9	創作ノオト	三島由紀夫	S30年	25,000	限定本文書と署名入、別添解説（写真付）
10	憂国	三島由紀夫	S41年	205,000	初版本、ビニールカバー付、帯付
11	喜びの琴	三島由紀夫	S39年	40,000	初版本、署名入、箱付
12	ハムレット	三島由紀夫	S26年	129,000	初版本
13	潮騒	三島由紀夫	S29年	15,000	初版本、帯付
14	金閣寺	三島由紀夫	S31年	25,000	初版本、帯付
15	行動学入門	三島由紀夫	S45年	3,000	初版本、帯付
16	現代風俗帖	木村荘八	S28年	63,000	限定本、署名落款入、箱付

1 7	墨東綺譚	永井荷風	S 46 年	65, 000	限定本、和綴本、別冊付、ふまき、箱付
1 8	〃	永井壯吉	S 12 年	32, 000	初版本、箱付
1 9	ふじやまげいし や	池田満寿夫	S 60 年	30, 000	限定本、奥付
2 0	雪国	川端康成	S 46 年	50, 000	定本、署名落款入、箱帯付
2 1	都わすれの記	谷崎潤一郎	S 23 年	50, 000	限定本、署名貼付、箱付
2 2	人魚の嘆き	谷崎潤一郎	T 8 年	78, 000	初版本
2 3	春琴抄	谷崎潤一郎	s45 年	28, 000	限定本、自筆原稿複製、和綴本、箱付
2 4	春琴抄	谷崎潤一郎	S 8 年	100, 000	初版本、表紙・裏うるし塗り、箱付
2 5	細雪	谷崎潤一郎	S24 年	250, 000	限定本、ふまき、送り箱付

【文学古書】 1, 5 5 4 冊

(平成 8 年度 購入分 5 4 0 冊)

NO	作 品 名	作 家	冊 数	備 考
1	川端康成全集	川端 康成	37	
2	漱石全集	夏目 漱石	19	
3	有島武郎	有島 武郎	16	
4	室生犀星全集	室生 犀星	14	
5	横光利一全集	横光 利一	16	
6	鷗外全集	森 鷗外	38	
7	富士正晴全集	富士 正晴	5	
8	織田作之助全集	織田 作之助	8	
9	芥川全集 復刻版	芥川 龍之介	23	
1 0	三島由紀夫全集	三島 由紀夫	36	
1 1	荷風全集	永井 荷風	29	
1 2	谷崎潤一郎全集	谷崎 潤一郎	28	
1 3	小川未明童話全集	小川 未明	16	
1 4	太宰治全集	太宰 治	12	
1 5	山本周五郎全集	山本 周五郎	30	
1 6	福永武彦全小説	福永 武彦	11	
1 7	辻邦生歴史小説集成	辻 邦生	12	

1 8	松本清張全集	松本 清張	56	
1 9	白秋全集	北原 白秋	40	
2 0	吉川栄治全集	吉川 栄治	58	
2 1	獅子文六全集	獅子 文六	17	
2 2	色川武大 阿佐田哲也全集	色川部大 阿佐田哲也	16	
2 3	ふじやまげいしゃ	池田 満寿夫	1	
2 4	試みの岸	小川 国夫	1	
2 5	仏陀巡礼	並河 萬里	1	

(平成9年度 購入分 605冊)

NO	作 品 名	作 家	冊 数	備 考
1	伊藤整全集	伊藤 整	24	
2	井伏鱒二全集	井伏 鱒二	14	
3	里見惇全集	里見 惇	10	
4	開高健全集	開高 健	22	
5	内田百閒全集	内田 百閒	33	
6	尾崎一雄全集	尾崎 一雄	15	
7	幸田文全集	幸田 文	23	
8	萩原朔太郎全集	萩原 朔太郎	15	
9	藤沢周平全集	藤沢 周平	23	
1 0	宮沢賢治全集	宮沢 賢治	15	
1 1	木下順二集	木下 順二	16	
1 2	石川啄木全集	石川 啄木	8	
1 3	山本有三全集	山本 有三	12	
1 4	壇一雄全集	壇 一雄	8	
1 5	小林多喜二全集	小林 多喜二	7	
1 6	大岡昇平集	大岡 昇平	18	
1 7	ファール昆虫記	ファール	10	
1 8	高見順全集	高見 順	21	
1 9	柴田錬三郎全集	柴田 錬三郎	18	
2 0	江戸川乱歩全集	江戸川 乱歩	25	
2 1	現代日本文学全集	夏目 漱石 他	143	
2 2	坪田譲治全集	坪田 譲治	12	
2 3	竹久夢二シリーズ特装本	竹久 夢二	9	
2 4	新潮古典文学アルバム	大庭 みな子 外	25	

2 5	長谷川伸全集	長谷川 伸	16	
2 6	宮尾登美子全集	宮尾 登美子	15	
2 7	筒井康隆全集	筒井 康隆	24	
2 8	五木寛之全集	五木 寛之	24	

(平成10年度 購入分 409冊)

NO	作 品 名	作 家	冊 数	備 考
1	横溝正史全集	横溝 正史	10	
2	山岡荘八全集	山岡 荘八	46	
3	菊池寛全集	菊池 寛	24	
4	島崎藤村全集	島崎 藤村	1 9	
5	高村光太郎全集	高村 光太郎	1 9	
6	大仏次郎自選集現代小説	大仏 次郎	10	
7	定本柳田国夫集	柳田 国夫	36	
8	斉藤茂吉全集	斉藤 茂吉	36	
9	定本坂口安吾全集	坂口 安吾	13	
1 0	久保栄全集	久保 栄	12	
1 1	壺井栄児童文学全集	壺井 栄	4	
1 2	石坂洋次郎短編全集	石坂 洋次郎	3	
1 3	新潮日本文学アルバム	谷崎 潤一郎 外	40	
1 4	今江祥智の本	今江 祥智	22	
1 5	鈴木三重吉童話全集	鈴木 三重吉	10	
1 6	校定新美南吉全集	新美 南吉	14	
1 7	椋鳩十の本	椋 鳩十	36	
1 8	室生犀星童話全集	室生 犀星	3	
1 9	日本児童文学大系	宮沢 賢治 外	30	
2 0	直木三十五全集	直木 三十五	22	

趣旨説明Ⅱ 美術館の役割について

美術館は、人類共有の財産である貴重な美術の作品・資料の価値を人々と分かち合い、文化を継承・発展、さらには創造していく機関であり、日々の活動を通じて人々の感性と知性を豊かにし、文化的な力量を蓄えた社会を築く役割を担っています。

1、美術館の原則

(1) 社会への貢献

美術を中心とした文化の価値を継承・発展、さらに創造することに努め、公益性・公共性を重視して人間と社会に貢献する。

(2) 多様な価値と価値観の尊重

人類共通の財産である美術作品・資料及びそれに関わる環境を持つ多様な価値を尊重する。

(3) 設置の責任

設置目的・使命を達成するため、安定した人的、物的、財源的基盤をもとに活動し、美術館に関わる人々と作品・資料等の安全確保を図る。

(4) 自由の尊重と確保

倫理規範と専門的基準とによって自らを律しつつ、人々の表現の自由、知る自由を保障し支えるために、活動の自由を持つ。

(5) 経営の安定

設置目的・使命に基づく方針と目標を定めて活動し、成果を評価し、改善を図る。

(6) 収集・保存の責務

体系的にコレクションを形成し、良好な状態で保存して次世代に引継ぐ。

(7) 調査研究

調査研究に努め、その成果の公表によって社会から信用を得る。

(8) 展示・教育普及

展示公開や教育普及などを通じ、広く人々とともに新たな価値を創造する。

(9) 研磨の必要

活動や充実・発展のため、各職務の専門的力の向上に努める。

(10) 発信と連携

地域や関連機関と協力連携して、総合的な力を高め社会への還元を図る。

(11) 法令・規範・倫理の遵守

関連する法令や規範、倫理を理解し、遵守する。

《引用文献》 全国美術館会議による美術館の原理と美術館関係者の行動指針

趣旨説明Ⅲ 洞爺湖芸術館の課題について

1、 保存管理の課題

(1) 砂澤ビッキ作品

- ・温度、湿度の影響を受けやすく、作品の劣化、損傷が進んでいる。
- ・生物被害（文化財害虫、カビ）が発生しやすく、原因解明に至っていない。
- ・木彫刻の大型作品は、緊急時等の移動が物理的、経済的に困難。
- ・作品の利活用にあつては、著作権の慎重な対応が必要である。
- ・展示作品の照明セッティング・交換等、高所作業のため危険性がある。
- ・所蔵作品の価値、評価の検証ができていない。

(2) 国際彫刻ビエンナーレ作品

- ・作家が世界各地にいるため追跡調査や著作権調査ができていない。
- ・紫外線による変色等の作品（素材）ごとに展示・収蔵の管理が十分でない。
- ・個人所有作品の寄贈に対応する収蔵庫の確保ができない。
- ・展示ケースの劣化により開閉ができなくなっている。
- ・展示作品の照明セッティング・交換等、高所作業のため危険性がある。
- ・所蔵作品の価値、評価の検証ができていない。

(3) 並河萬里（写真）

- ・高温、高湿度等作品の劣化が心配される。
- ・写真（ネガ、ポジ）の整理ができていない。
- ・損害保険には、すべて未加入となっている。
- ・作品の利活用にあつては、著作権の慎重な対応が必要である。
- ・展示作品の照明セッティング・交換等、高所作業のため危険性がある。
- ・所蔵作品の価値、評価の検証ができていない。

(4) 初版本・限定本・文学古書

- ・素材が紙のため、特に温度・湿度の影響を受けやすい。
- ・貴重なコレクションであるが、有効な活用（一部公開）ができていない。
- ・文学専門家への活用方法等の調査研究がされていない。
- ・所蔵作品の価値、評価の検証ができていない。

(資料1) 文化財(作品)の劣化要因と現状

分 類	現 状
I 湿温度 (温度・湿度が一定)	・室内は気象条件(外気)の影響を受けやすく一定ではない ・夏季の展示室(特に2階)は高温・高多湿の状況である
II 光 (紫外線等の制御)	・展示室全てに窓があり常に紫外線等の影響がある ・2階展示室からの洞爺湖の風景は好評、窓の完全封鎖は魅力を排除する
III 空気汚染 (空気の流れが良い)	・展示室と屋外出入り口までの距離が近いこと、外気が直接展示室に入りやすい ・1階の展示空間の壁には、人為的隙間が施してあるため外気、埃などの進入がある
IV 生物 (微生物・動物・昆虫・植物の制御)	・ミュージアム運営に支障をきたす文化財害虫が発生し、駆除が困難 ・施設の隙間から侵入し制御ができない ・建物と作品とも害虫の食害を受けている(劣化、損傷) ・高温多湿状態で害虫が発生しやすい環境にある ・屋外に展示してある原木にも生物被害が発生している
V 振動・衝撃 (耐震)	・2階展示室では鑑賞時の人の歩行等で振動する ・2回の床に凹凸や傾斜があり、展示台が不安定
VI 火災・地震・水害 (火災・耐震等)	・大規模な地震の発生時の耐震性に懸念、また、火災等が発生した場合、大型の木彫作品等搬出が困難
VII 盗難・破壊 (監視体制)	・監視は展示室に設置された監視カメラによる監視が基本であるが、展示空間全ての監視はできていない

(資料2) 文化財害虫対策の現状

令和元年度	ビッキ作品貸出中に害虫(シバンムシ)発生し、燻蒸殺虫を実施及び木彫収蔵作品メンテナンス、モニタリング調査(浮遊菌検査、炭酸ガス製剤施工)
令和2年度	木彫所蔵作品炭酸ガス製剤噴霧(ビッキ展示室、アトリエ再現室)
令和3年度	移動式エアコンリース及び衛生管理業務委託(木彫収蔵作品殺虫剤施工)
令和4年度	除湿機リース及び衛生管理業務委託(木彫収蔵作品殺虫剤施工)
令和5年度	冷風機、除湿機リース及び衛生管理業務委託(木彫収蔵作品殺虫剤施工)
令和6年度	エアコン設置(1階展示室)及び衛生管理業務委託(木彫収蔵作品殺虫剤施工)

2、 施設管理の課題

- (1) 悪天候時、窓や壁等の劣化により雨漏りが発生する。
- (2) 1階展示室にエアコンを設置したが、2階展示室は高温、高湿のため、観覧者からの苦情がある。
- (3) 2階の空気（高温）の滞留を防ぐ対策ができていない。
- (4) 2階への階段の傾斜がきつく、また階段幅も狭く、上り、降りに危険性がある。エレベーターは設置されているが、順路から離れた場所にあり利用者が少ない。
- (5) 収蔵庫の収蔵能力の限界で、作品の所蔵が困難となっている。
- (6) 前庭広場が十分活用できておらず、また、野外イベントの開催時、駐車場が狭く、休憩スペースも利用しづらい。

(資料 3) 素材別最適湿度（室温約 20℃とする場合）

45%以上	金属 石 陶磁器
45～55%	化石
50～55%	油絵
50～65%	皮 羊皮紙 自然史関係の資料
55～65%	紙 木 染織品 漆

※ 文化財にとってベストな環境は、温度 22℃ 湿度 50～60%が最適
(東京国立博物館)

3、 運営体制の課題

- (1) 芸術館スタッフは、学芸員、事務職員、受付の館運営に携わる職員の体制をとっているが、本来の活動である美術作品の調査・研究、収集・保管や、若手等の美術分野の作家や作品への調査・研究、収集の対応が困難。

館長（社会教育課長兼務）	1名
学芸員	1名（芸術館勤務）
芸術館係長（社会教育スポーツ兼務）	1名
受付業務（常勤）	1名（芸術館勤務）
（パート）	2名（芸術館勤務）

- (2) 事業展開は、常設展、特別展、関連事業、ワークショップ（GW、夏休み）演奏会等これまでの事業を継続、踏襲されたもので、マンネリ化の解消。
年間スケジュール策定での特別展（企画立案）と予算の交渉。
- (3) 来館者数の伸び悩み（特に、町民利用、リピーター、インバウンド外国人等）

- (4) 未展示収蔵されている作品の公開・展示ができていない。
- (5) 洞爺湖芸術館友の会との連携事業グッズ販売を行っているが、新たなグッズ開発の取り組みが必要。
- (6) ポスター、チラシ、ホームページなどによる情報発信を行っているが、より一層の工夫が必要。
- (7) 監視カメラによる展示作品の監視を行っているが固定式で映りが悪く、機器の劣化が生じている。

4、今後の課題（まとめ）

【作品に関する課題】

①保存環境

温度、湿度、光、害虫など、作品の劣化を加速させる環境要因が数多く存在。

②調査・研究

作品に関する調査や評価が不十分。また、作家や著作権の問題等の調査も必要。

③作品の活用

コレクションの公開や活用が十分に行われていない。（特に、初版本・限定本・文学古書）

【施設に関する課題】

①老朽化

建物や設備の老朽化が進み、雨漏りや塗装等、修繕が必要な箇所が多数存在。施設の中・長期的な修繕・改善の計画と実施が必要。

②展示・収蔵環境

作品の移動や展示、収蔵に必要な設備等が不十分。特に、収蔵庫の計画的な改修、又は移転等の検討。

③前庭広場の活用

前庭広場が活用されておらず、利活用等の検討が必要。

【運営に関する課題】

①運営スタッフ体制

本来の調査・研究、保管や収集ができる体制を構築する必要。また、監視体制の見直し、強化。

②展示企画・内容

特別展の企画（人気作家の選定、報酬基準等）の見直しや、地元にはゆかりのある作家や作品の調査、新たなコレクション収集の検討が必要。

③連携

各種組織との連携強化が必要。

※例

洞爺湖芸術館友の会と協力し、新たな事業やグッズを企画
とうや水の駅など、地域内の他の施設や事業の連携を強化
近隣の美術館との連携事業の実施

④情報発信

来館者増に繋がる、情報発信の工夫が必要。